

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	オオサキメディカル 九州物流センター 新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	-------------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.7 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	1.0 / 5		がんばろう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
---	-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)
--------------------------------------	---------------------------------------

1 循環型社会への貢献

リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.2	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.6
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.9
GL工法及びLGS工法により躯体と仕上げ材の分別を容易にし、再利用可能なOAフロアを採用した。		耐用年数が長い外壁材や配管材を採用。階高4.0m以上、壁長さ比0.0811と空間にゆとりのある計画とした。	

2 地球温暖化対策の推進

省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.4	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
LSCO2排出率89%		過半数以上の器具に節水仕様のあるものを採用。	

3 豊かな自然環境の確保

生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
敷地条件に合った緑化計画を行った。		燃焼機器を使用せず、温熱環境向上に配慮した計画。隣棟間隔指数Rw0.847で建物後流域での風の回復を促進している。	

4 高齢社会への対応

バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	建物の外皮性能 (BPI評価)	
バリアフリーに関する指導なし。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0.62
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.8
		外構緑化指数	11 %
		建物緑化指数	0 %

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オオサキメディカル 九州物流センター	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区曾根北町	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年6月20日
敷地面積	11,469 m ²	作成者	(株)エネ・グリーン寺川幸子
建築面積	6,388 m ²	確認日	2019年6月21日
延床面積	12,265 m ²	確認者	(株)エネ・グリーン定森純一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記+②以外の 89%
④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 安定した医療材料の物流を実現させるため、オオサキメディカル株式会社の新たな拠点計画。また省エネルギーに配慮している。		その他 特になし
Q1 室内環境 使用建材全てにF☆☆☆☆を採用。高い自然換気性能を有し、空気質を向上させることが可能。	Q2 サービス性能 天井高さを十分に確保し、広さ感に配慮している。自動販売機を備えたリフレッシュスペース設計、利用者への快適性を高めている。ゆとりのある階高と空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い。	Q3 室外環境(敷地内) 大規模建築物に該当するため、建物の高さや色彩に留意し、主張しすぎないよう配慮した計画。また、敷地周辺を緑化することで良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー LED照明の採用等、高効率設備機器を採用している。	LR2 資源・マテリアル 過半を超える給水器具に節水仕様品を採用。躯体と仕上げ材が比較的分別容易な構造を採用し、再利用可能なユニット部材としてOAフロアを導入している。	LR3 敷地外環境 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO ₂ 排出量低減に配慮している。オール電化により大気汚染物質を全く発生しない。充実した駐車駐輪施設に加え、敷地内に長い車路を設け、周辺への渋滞緩和に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
オオサキメディカル 九州物流センター 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.30		-	2.7
1 音環境						1.8	0.15		-	1.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						1.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						1.8	0.35		-	1.8
2.1 室温制御						2.7	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						2.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.5	0.25		-	3.5
3.1 昼光利用						4.2	0.30		-	
1 昼光率		昼光率5.493				5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口							-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		事務所平均照度: 707lx				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.9	0.25		-	3.9
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		使用建材にF☆☆☆☆を採用				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		事務所面積63.03㎡/15=4.202㎡<自然換気有効開口面積6.192㎡				5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		当該建築物は建築物衛生法の対象ではない				-	-		-	
2 喫煙の制御		健康増進法を順守				5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能							0.30		-	3.2
1 機能性						2.8	0.40		-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40		-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30		-	
1 広さ感・景観		事務所CH=2.7m				4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		事務所面積63.03㎡*1%=0.6303<休憩スペース=7.91475㎡+自販機2台				5.0	0.33		-	
3 内装計画						1.0	0.33		-	
1.3 維持管理						3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		地震係数Z=0.8				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		カラーガルバリウム鋼板: 40年				5.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水: SGP-VA、雑排水・汚水排水・通気: VP				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務所階高:4.0m、工場階高:4.0m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比:0.0811	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		事務所床:2900N/m ² 、倉庫床:3900N/m ²	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m]= 0.62	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.80	3.0	0.62	-	-	3.0
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型便器、自動水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		長尺塩ビシート・廊下・更衣室・救護室・食堂	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		GL工法またはLGS工法、OAフロア採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LSCO2排出率89%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	交通負荷抑制に十分配慮した計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリスト10項目該当、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	